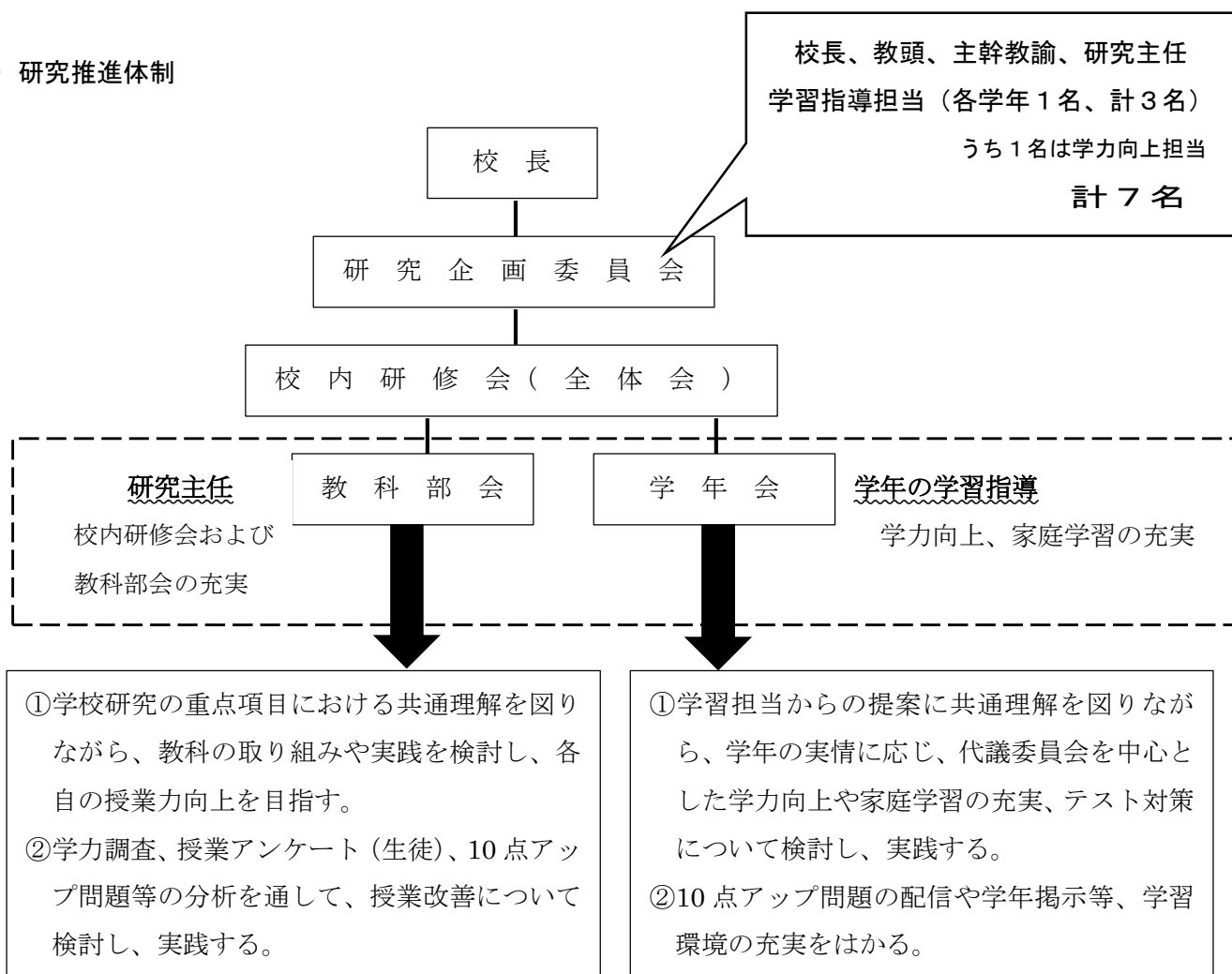


## 研究の組織と運営

### (1) 研究推進体制



### (2) 研究の進め方

- ① 研究企画委員会が提案した企画等に基づき、学校研究を教科部会および学年（学校）全体で進める。
- ② 教師も生徒も「学びあい」。教師側は共通実践を通して、同僚性を高める。

## 3. 研究の概要

### (1) 令和8年度 研究主題

## 主体的に考え、表現する生徒の育成

～見通しと自己決定の場を通して～

### (2) 主題設定の理由および研究の重点

R7年度前期および後期の全学年を対象とした「授業アンケート」および「教職員アンケート」では、全教職員が「指導したことを褒めている」と思っていることについて、生徒たちの全教科平均における肯定的評価（A+B）は年間平均で87.8%となり、令和5年度以降、上昇傾向が見られている。しかしその一方で、12.2%の生徒たちは、まだそう思っていない、感じていないことも常に理解しておく必要がある。

次に、教職員は「授業中、生徒が思考・判断したことを表現する場面を確保している」と思っている（R7年間平均97.5%）について、「授業中、他人に説明したり文章に書いたりするなど、自分の考えを表現して

いる」と感じている生徒は、肯定的評価（A+B）で、全教科平均 90.8%まで上昇した。これは R6 年度から、さらに 7 ポイントも上昇しており、教職員と生徒の意識差は 6.7 ポイントまで差が縮まっている。

つまりこれまで本校の生徒の課題として挙げてきた「自分の考えを十分にもてない」または「考えをもっていない」ため、「学んだことを自分で表現していない」という状況が、これまでの学校研究の多くの実践を通して、この 3 年間で少しずつ改善している傾向が見えてきた。まだ 9.2%（1 割弱）の生徒たちは、表現することに対しての不安感や抵抗感がある、という実態はあるが、多くの生徒たちにとっては、「表現すること」に対する抵抗感は、少しずつ軽減されてきているのではないと思われる。

生徒（R 7） 生徒アンケートはクラス別、教科別で実施したため、以下は全教科、全学年平均を示す

A…そう思う B…だいたいそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない (%)

| 質問項目 |                                              | 前期（7月） |      |      |     | 後期（12月） |      |     |     |
|------|----------------------------------------------|--------|------|------|-----|---------|------|-----|-----|
|      |                                              | A      | B    | C    | D   | A       | B    | C   | D   |
| ①    | 授業では、先生に褒められたりアドバイスされている。                    | 50.4   | 37.2 | 10.3 | 2.2 | 46.1    | 41.9 | 9.9 | 2.0 |
|      |                                              | 87.6   |      |      |     | 88.0    |      |     |     |
| ②    | 単元のはじめや授業のはじめに、学習の見通し（解決の見通し）をもつ場面がある。【重点項目】 | 54.4   | 37.9 | 6.2  | 1.5 | 49.9    | 42.4 | 6.5 | 1.2 |
|      |                                              | 92.3   |      |      |     | 92.3    |      |     |     |
| ③    | 授業の中で、自分の考えをもつ場面がある。【重点項目】                   | 51.0   | 40.0 | 7.7  | 1.4 | 56.0    | 37.8 | 5.3 | 0.9 |
|      |                                              | 91.0   |      |      |     | 93.8    |      |     |     |
| ④    | 授業の中で、他の人に説明したり文章に書いたりするなど、自分の考えを表現する場面がある。  | 50.1   | 39.6 | 8.4  | 1.9 | 54.0    | 37.9 | 6.5 | 1.6 |
|      |                                              | 89.7   |      |      |     | 91.9    |      |     |     |
| ⑤    | 授業の内容は分かりやすい。<br>【町共通項目】                     | 59.8   | 32.7 | 5.7  | 1.7 | 55.5    | 39.0 | 4.4 | 1.1 |
|      |                                              | 92.5   |      |      |     | 94.5    |      |     |     |

教職員（R 7）

A…そう思う B…だいたいそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない (%)

| 質問項目 |                                      | 前期（7 月） |      |     |     | 後期（12 月） |      |     |     |
|------|--------------------------------------|---------|------|-----|-----|----------|------|-----|-----|
|      |                                      | A       | B    | C   | D   | A        | B    | C   | D   |
| ①    | 授業では生徒を褒めたり、アドバイスしている。               | 69.2    | 30.8 | 0.0 | 0.0 | 60.0     | 40.0 | 0.0 | 0.0 |
|      |                                      | 100.0   |      |     |     | 100.0    |      |     |     |
| ②    | 授業中に、生徒が学習の見通しをもてるよう指導している。【重点項目】    | 59.0    | 41.0 | 0.0 | 0.0 | 47.5     | 50.0 | 2.5 | 0.0 |
|      |                                      | 100.0   |      |     |     | 97.5     |      |     |     |
| ③    | 授業中に、生徒の自己決定の場を設定することに取り組んでいる。【重点項目】 | 38.5    | 59.0 | 2.6 | 0.0 | 32.5     | 60.0 | 7.5 | 0.0 |
|      |                                      | 97.4    |      |     |     | 92.5     |      |     |     |
| ④    | 授業中、生徒が思考・判断したことを表現する場面を確保している。      | 51.3    | 43.6 | 5.1 | 0.0 | 47.5     | 52.5 | 0.0 | 0.0 |
|      |                                      | 94.9    |      |     |     | 100.0    |      |     |     |
| ⑤    | 生徒が「わかった」、「できた」を実感できる授業をしている。【町共通項目】 | 47.4    | 47.4 | 5.3 | 0.0 | 40.0     | 60.0 | 0.0 | 0.0 |
|      |                                      | 94.7    |      |     |     | 100.0    |      |     |     |

R7 年度の学校研究の重点項目となった質問項目②および③「見通し」と「自己決定」に関しては、初年度から比較的高い数値となっており、教科内で単元の学び方を共有したり、悩みながらもどのように生徒たちに落とし込んでいくか等、全職員で同じ方向を見ながら、常に授業に挑戦している教職員の実態が伺える。

また、この重点項目に関しての「生徒と教職員の意識差」について、年間平均で比較してみると、「見通し」は 6.5 ポイントの差、「自己決定」は 2.6 ポイントの差となっており、その差は「ほぼ無い」と言える。R7 年度から重点項目となったにも関わらず、本校の教職員は、R7 年度春の授業開きから重点項目である意識して授業に臨み、日々生徒たちと向き合っている実態が伺える。そして多くの生徒たちは、それら教職員の思いに応えるよう、単元や解決の見通しをもって自己決定する授業を体感している様子が伺える。

質問項目④（町共通項目）については、「生徒と教職員の意識差」について、年間平均で 3.9 ポイント程度の差が生じているものの、同様に、この差もさほど大きくなかった。教職員は「分かった、できた実感が伴う授業実践」をし、一定数の低学力、無気力の生徒が存在しつつも、多くの生徒たちは「授業が分かりやすい」と感じている実態が伺える。今後は「分かりやすい」から「できる」へ繋げていくことも、生徒たちには意識させたい。

R7 年度は、本校の学校研究として、これまでの低迷してきた「表現する」ことに関して、生徒に見通しをもたせ、さまざまな自己決定の場を工夫して設けることで、生徒が主体的に自らの考えを「表現する」機会がふえてくるのではないかという仮説のもと、研究主題を「考え、高め合い、表現する生徒の育成」とし、副題を「見通しと自己決定の場を通して」と設定した。しかし、研究主題にある「表現する」に関しては、この 3 年間で確実な改善傾向が、数値からは読み取れる状況となった。

「表現すること」に関しては、今後も「自ら主体的に考えたことを表現しよう、表現したくなる」といった生徒を育成するといった大きな方向性は継続すべきことであると考ええる。昨年の学校訪問での指摘では、「表現させる、ではなく、学習の主体性をとらえたもの（教科の見方、考え方を意識した表現を目指す）」とあった。さらなる質の向上を目指すため、「表現のあり方」について学校研究を進めていくことが大切といえる。

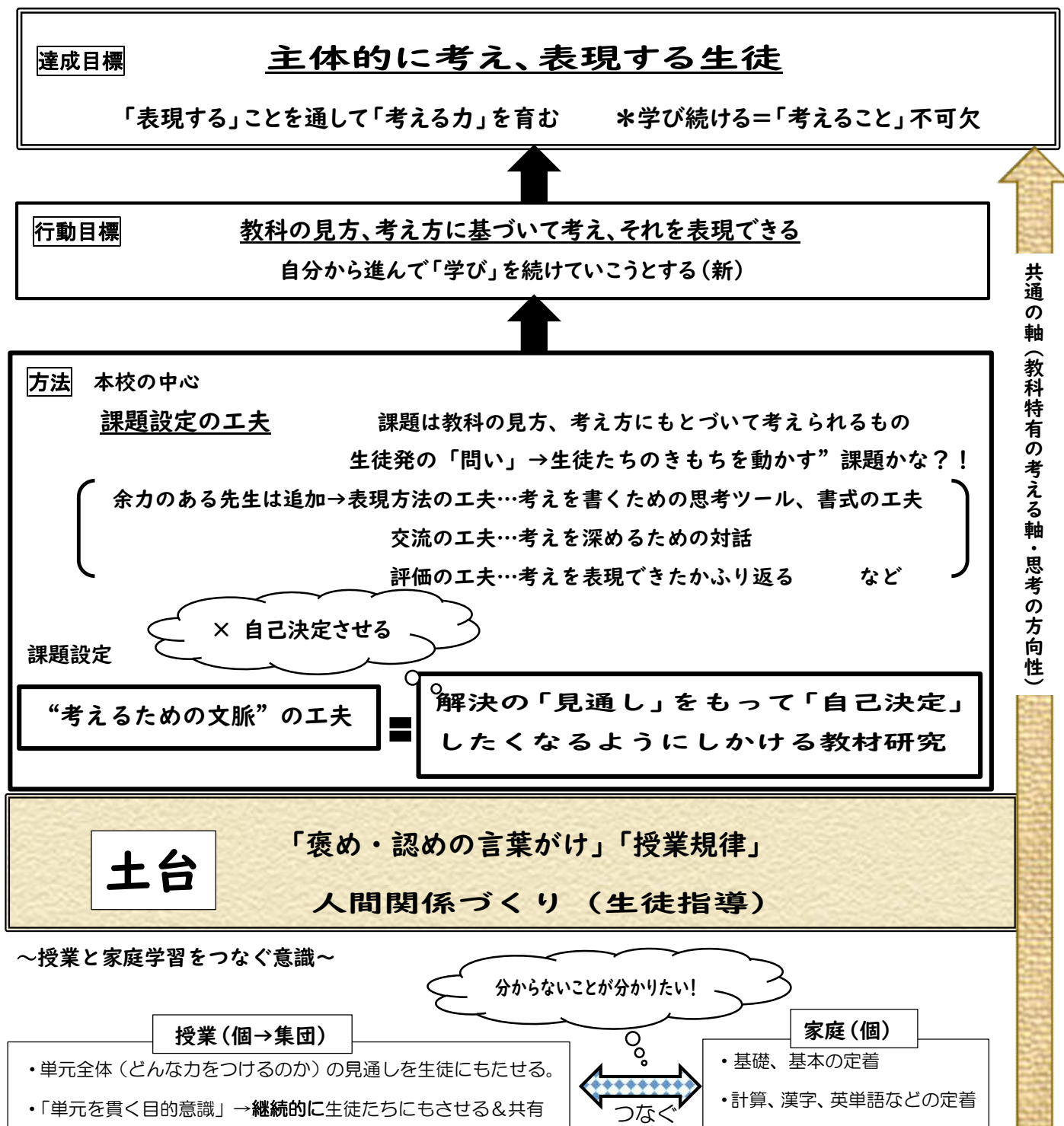
その反面、R7 年度アンケートで大きく下降傾向が見られた項目は、授業に関することではなく、家庭学習に関する項目が目立つ。たとえば「自分で計画を立てて学習している。」という項目は、生徒たちにとってはハードルの高い主体性を問うものである。例年比較的低めの肯定的回答であるものの、R7 年度前期は、否定的回答（D：全く当てはまらない）が、3 割弱まで増加していた。また、「家庭学習の習慣が身についている」も同様に、前年比をさらに下回る状況となっている。「必要感のある課題」をこまめに出していき、生徒たちの学びのリズムを整えていくことも、今の生徒たちには授業とともに必要ではないかと思われる。R8 年度は、授業を肯定的に捉えている生徒たちの意識を、個の家庭学習にどのように繋げていくか等も念頭におきつつ、各教科で授業実践を積み上げていくと良い。

主体的に考えて表現するためには、何を最終的にできるようになればいいのか、といった単元の到達目標（めあて）、教科の見方、考え方で表現していく方向付け（解決の見通し）が必須である。目指す生徒の行動目標は「教科の見方、考え方にもとづいて考え、それを表現できる」ことである。

そのような生徒の行動目標を達成するための学校研究として、取り組む方法の中心は「課題設定の工夫」といえる。課題が生徒のきもちを動かすものになっているか？その課題は教科の見方、考え方にもとづいて考えられるものであるか？を、常に意識していく必要がある。そして、そのような「課題」となるためには、

生徒たちが解決の「見通し」をもって、「自己決定」したくなるようにしかける展開となるような「課題」を設定しなければならない。以上の方法で、「表現すること」を通して「考える力」を育み、主体的に学び続ける生徒の育成へと繋げていく。

## 内灘中学校 研究構想図



R8年度は、生徒が解決の「見通し」をもって、「自己決定」したくなるような場となるためには、どんな課題設定の工夫ができるのか、また教科の見方、考え方にもとづいた「したくなる繰り返しの自己決定」は、生徒の主体性を育むことにもつながるという仮説のもと、教科全体で、より効果的な授業を探究していく。

以上のことから、R8年度研究主題は「主体的に考え、表現する生徒の育成」とし、副題を「見通しと自己決定の場を通して」と設定する。

### (3) 具体的な手だて

#### ① 相互授業参観（年に2～3回、学期に1回程度）の実施

＜目的＞

ア、授業力向上のため…課題設定の妥当性、教師の出る場と待つ場、生徒同士の関わる活動の質、まとめ・振り返りによる生徒の変容を見ることが、各自の授業力向上をはかる。  
イ、生徒理解のため…学級や部活動で見る生徒が、どのような授業態度であるか等、職員全体で理解し、また支援していることを生徒に理解させる。

#### ② 校内研修会（全教科共通）の実施

#### ③ 教科部会の充実→年間10回程度

\*ただし要請訪問や学校訪問の授業整理会等は含んでいない。

- ・学力、学習状況調査等の分析
- ・教科等の資質能力育成シートの作成および分析
- ・単元の学び方＝解決の見通し（考えるための文脈）の共有
- ・教科の見方・考え方をはたらかせることのできる課題設定
- ・生徒がしたくなる「自己決定」の場の工夫

#### ●研究授業

##### ①学校訪問（10月20日）

- ・計画的に学習する習慣をつけるための家庭学習課題の工夫→必要感のある課題、こまめな課題点検等
- ・10点アップ問題の吟味

（10点アップ問題とは）

基礎基本の定着が不十分な生徒、学習意欲の低い生徒に成功体験を積み、学習意欲の喚起につなげるため、定期テストの内容を見越した基本問題（副教材から）を事前に生徒に示す。

\*内容はR8年度からの統一テスト、公立入試等も考慮し、記述問題も率先して含める。

\*採点終了後は効果検証のため、正答率等の平均値を確認して学習指導へ生かす。

#### ④ 「学びの基本」（聴く力・話す力・伝える力）の育成については、全教科で取り組む。

| 聴く力   | 話す力     | 伝える力          |
|-------|---------|---------------|
| ①うなづく | ①聞こえる声で | ①理由をつけて       |
| ②相づち  | ②丁寧な言葉で | ②大切なところはゆっくりと |
| ③称賛   | ③理由をつけて | ③言いかえ・付け足し    |

#### ⑤ 研究企画委員会（参加者：校長、教頭、主幹教諭、研究主任、学習担当3名、合計7名）（週1）

- ・研究企画委員会における検討内容を、各学年の学習担当が、学年会で提案する。
- ・各学年の学習担当は、代議員指導担当を兼ねる。  
→学年の学習状況を把握し、また生徒が学習意識・家庭学習の取組を考えられるようにうながすため。

⑥ その他…土台：褒め・認めの言葉がけ、人間関係づくりについて

生徒指導部との連携 共感的な人間関係づくり、授業規律の徹底

→さわやかカード、定期的なグループエンカウンター、SCによる人間関係づくり講座 等

生徒活動部との連携 授業規律の徹底

→挨拶のしかた、代議員による取り組み、学習ルール 等

(4) 検証方法

① 学力・学習状況調査等の結果分析（各教科）

自校採点・分析を実施し、研究実践の検証とする。結果分析を指導に生かす。

（4月～5月、7～8月ごろ）

② 教科等の資質・能力育成シートの作成および分析（各教科）

生徒の現状と原因をまとめることで、検証問題および次への目標について見通しをもつ。

（Ⅰ期：4月末、Ⅱ期：8月末、Ⅲ期：12月末）

③ 生徒の意識調査の集計および分析（研究主任）

授業アンケートの結果は、教諭（担当クラスの状況一覧）ごとにまとめる。

また、1～3年すべての結果については平均値を算出し、学校全体の傾向についての把握を行う。

R7年度 アンケート項目一覧

R7 生徒「授業アンケート」（7月、12月）→ クラス別、教科別で実施（研究主任）

|   |                                              |
|---|----------------------------------------------|
| 1 | 授業では、先生に褒められたり、アドバイスされている。                   |
| 2 | 単元のはじめや授業のはじめに、学習の見通し（解決の見通し）をもつ場面がある。（重点項目） |
| 3 | 授業の中で、自分の考えをもつ場面がある。（重点項目）                   |
| 4 | 授業の中で、他の人に説明したり文章に書いたりするなど、自分の考えを表現している。     |
| 5 | 授業の内容はわかりやすい。【町共通項目】                         |

R7 教師「授業アンケート」（7月、12月、2月）→ 教務部の「学校評価アンケート」内で実施

|   |                                                 |
|---|-------------------------------------------------|
| 1 | 授業では生徒を褒めたり、アドバイスしている。                          |
| 2 | 単元（題材）の導入で、生徒が学習の見通し（解決の見通し）がもてるよう指導している。（重点項目） |
| 3 | 授業中に、生徒の自己決定の場を設定することに取り組んでいる。（重点項目）            |
| 4 | 授業中、生徒が思考・判断したことを表現する場面を確保している。                 |
| 5 | 生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。【町共通項目】             |

R7 生徒「家庭学習アンケート」（7月、12月、2月）→ 学年別で実施（各学年学習担当）

|   |                                                              |
|---|--------------------------------------------------------------|
| 1 | 平日（学校の授業時間以外）、1日あたり、およそどれくらいの時間、学習しますか。（塾の時間などは含みます）         |
| 2 | 学校が休みの日（部活、校外活動あり）1日あたり、およそどれくらいの時間、学習しますか。<br>(塾の時間などは含みます) |
| 3 | 学校が休みの日（部活、校外活動なし）1日あたり、およそどれくらいの時間、学習しますか。<br>(塾の時間などは含みます) |

\* 各学年の学習担当は、結果を学年で共有および実態把握をし、学年の学習指導に生かす。